

2021 年度活動報告・決算報告

特定非営利活動法人共存の森ネットワーク

NPO 法人共存の森ネットワークの活動指針

当 NPO は、「聞き書き甲子園」の活動と、この事業に参加した経験をもつ卒業生有志からはじまった「共存の森」と呼ぶ活動を母体に生まれました。

森とともに生きてきた先人たちの伝統的な暮らしの知恵や技の集積の中に持続可能な社会の基本があることを見据えながら、人と自然・人と人との「共存」を基本とした社会づくりと、新たな価値観の創造に寄与することを目的としています。

そのために、当 NPO は「聞き書き甲子園」の運営をはじめ、「閉じられた生態系ー地球ー」の上で全人類と他の生物が共存するための「人づくり」、「森づくり」、「地域づくり」、「情報発信」等、様々な活動を展開していきます。

これらの活動を末永く続けていくことが、持続可能な社会の構築への一歩と考えます。そのためには、大人たちから若い世代へ、若い世代から大学生・高校生へと、世代をつないでいくことが重要です。

当 NPO の使命と社会的役割について、会員の皆様の積極的な議論を期待するとともに、引き続き、活動へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

概 要

当団体の設立の契機となった「聞き書き甲子園」は、本年度 20 周年を迎えました。

9 月には 20 周年記念事業として『聞く』と『書く』のあいだ展」を都内で開催。その後は、地方自治体や図書館等のご協力により、全国各地でパネル展示や映画上映会等を企画、開催いただきました。コロナ禍にも関わらず、延べ 21,500 人を超える方々にご来場いただき、「聞き書き」の活動やその意義を多くの方に知っていただく機会となりました。開催にあたりご協力、ご支援をいただきました企業、行政、団体、市民の皆様に改めて感謝申し上げます。

さて、本年度も、新型コロナウイルス感染症は収束せず、夏はデルタ株、冬以降はオミクロン株がまん延し、若年層への感染も広がりました。

そのため、都内中学生を対象として開催を予定していた「きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園～」は開催を中止。

全国の高校生が参加する「聞き書き甲子園」の事前研修は、オンラインを併用し、4 地域に分散して開催。また、「名人」への取材は原則としてオンラインで行い、年度末に開催するフォーラム（成果発表会）もオンラインで実施しました。

大分県国東半島・宇佐地域の世界農業遺産の「聞き書き」事業も、高校生の研修や「名人」の取材の一部はオンラインで実施。

また、昨年に引き続き、公益財団法人笹川保健財団からの委託により実施した高校生によるハンセン病回復者の「聞き書き」事業は、オンラインで取材を行い、成果発表のフォーラムもオンラインで開催しました。

「海辺の自然再生・高校生サミット」は、当初 9 月に青森市内で開催することを予定していましたが、年明け 1 月に実施を延期しました。本年度は、同サミットに参加する高等学校の活動を広く発信するために、ウェブサイトの新設しました。

また、岡山県真庭市で開催する「真庭なりわい塾」は、初回講座を 8 月に延期。全 8 回の講座すべてを日帰りプログラムに変更し、オンラインを活用した補講を行いました。

以上のように、本年度の活動は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止を最優先とする工夫が求められましたが、オンラインを活用し、開催時期も調整する等して、ほぼすべての事業を実施することができました。

ご支援ご協力をいただいた皆様に、改めて感謝申し上げますとともに、以下、各事業の詳細をご報告いたします。

I 組織

1. 会員（2022年4月30日現在）

| | 一般会員 | ユース会員 | 法人・団体会員 |
|------|---------|---------|---------|
| 正会員 | 42名（-1） | 38名（-2） | |
| 賛助会員 | 22名（-4） | | 3社7口 |

※ユース会員 : 満23歳未満で正会員となる方

※（ ） : 昨年同時期からの増減

2. 役員（敬称略）

| 役名 | 氏名 | 所属等 |
|-----|--------|--|
| 理事長 | 澁澤 壽一 | 株式会社エスパシオ代表取締役 |
| 理事 | 吉野 奈保子 | NPO 法人共存の森ネットワーク事務局 |
| 理事 | 工藤 大貴 | 一般社団法人 野ノ編集室代表理事 (第8回 聞き書き甲子園参加) |
| 理事 | 峯川 大 | NPO 法人共存の森ネットワーク事務局 (第9回 聞き書き甲子園参加) |
| 理事 | 本多 美優 | ハイジ・インターフェイス株式会社 |
| 理事 | 小林 和彦 | NPO 法人やんばる・地域活性サポートセンター事務局長 |
| 監事 | 須河 紗也子 | NPO 法人利賀山川まもる事務局 |
| 監事 | 中山 幹生 | 株式会社森里川海生業研究所 |

II 事業

1. 人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業

<第20回 聞き書き甲子園の開催>

「聞き書き甲子園」は、全国の高校生が森・川・海の名人を訪ね、自然とともに生きる知恵や技、その生きざまを「聞き書き」によって記録し、発信する活動です。「聞く」ことを通して世代間のコミュニケーションを図り、持続可能な社会を担う若者を育成することを目的に、平成14年度より行っています。第18回（令和元年度）からは、名人の推薦と高校生の受け入れに協力する地域（市町村等）を公募し、実施しています。

第20回開催では、全国の12地域の協力で実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染者の急増のため、石川県能登町が協力を延期しました。本年度は、下記の11地域（市町村等）の78名の名人の協力を得て、聞き書きを行いました。

【協力市町村（地域）】

岩手県西和賀町／山形県小国町／山形県白鷹町／栃木県鹿沼市／長野県飯田市（南信濃地区）／岐阜県中津川市（加子母地区）／岐阜県東白川村／福井県大野市／大阪府阪南市／岡山県備前市／長崎県大村市（計11地域）

【実施スケジュール】

| | |
|-----------------|----------------------|
| 2021年5月10日 | 参加高校生募集開始 |
| 6月24日 | 募集締切 |
| 7月下旬 | 参加高校生の選考・決定 |
| 8月10～12日、16～18日 | 事前研修 |
| 10月～12月 | 高校生による名人の取材実施 |
| 12月14日 | 作品提出締切、「聞き書き作品集」制作開始 |
| 2022年3月21日 | 成果報告会（フォーラム）開催 |
| 4月25日 | 「聞き書き作品集」完成、発送 |

【実施体制】

[主催] 第20回聞き書き甲子園実行委員会

（農林水産省／文部科学省／環境省／公益社団法人国土緑化推進機構／NPO 法人共存の森ネットワーク）

[募金協力・企業寄付] 株式会社ファミリーマート

[助成] 公益財団法人日本財団

[協賛・協力] トヨタ自動車株式会社、一般財団法人環境文化創造研究所、公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会、富士フィルムホールディングス株式会社、株式会社長塚電話工業所、株式会社トンボ、京王電鉄株式会社、株式会社ティムコ、公益財団法人 SOMPO 環境財団、株式会社ベネッセコーポレーション、大和ハウスグループエンドレス募金

[後援] 総務省、全国市長会、全国町村会、全国山村振興連盟、全国過疎地域連盟、NPO 法人「日本で最も美しい村」連合

<実施内容>

① 事前研修

例年、都内で、参加高校生全員が一堂に会し実施している事前研修は、取材する地域のグループごとに6回に分けて実施しました。なお、不足する内容を補うため、10月下旬に「作品の編集のしかた」についての追加研修をオンラインで実施しました。

[研修日時・場所] 8月10・11日 TKP ガーデンシティ京都（京都府京都市）
12日 八百治博多ホテル（福岡県福岡市）
16・17日 セレクトン福島（福島県福島市）
18日 アルピコプラザホテル（長野県松本市）
(いずれの日も 14:15～16:30)

[研修内容]・塩野氏による講義、取材に関する諸注意、名人との組み合わせ決定

[実施方法]・会場での参加もしくはオンライン参加

- ・高校生は取材する地域グループごとに受講
- ・会場参加者は、事前にPCR検査を実施し、陰性者のみ参加を許可

[参加人数]・1回あたり2グループが参加

- ・参加高校生・講師・協力市町村（地域）担当者・スタッフ（事務局および聞き書き甲子園卒業生である大学生スタッフ）含め、会場参加者は1回あたり25人以内。

[宿泊室] 全員個室を利用



会場での研修の様子

②聞き書き取材

デルタ株の感染拡大に伴う緊急事態宣言・まん延防止等重点措置対象地域の拡大を背景とし、9月1日に行われた実行委員会にて、取材を原則としてオンラインで実施することを決定しました。協力市町村には、オンライン取材への理解と協力を依頼したところ、全ての地域から同意を得ました。

同年10月より、市町村の協力のもと、オンラインでの取材が実施されました。取材にあたり、市町村担当者や名人からは、参考となる仕事場や道具に関する写真や資料を提供いただき、また、高校生は質問事項をあらかじめ名人に伝えるなどの工夫をしました。

なお、福井県大野市在住の3名の名人については、オンライン取材への対応が難しいことから、役場の会議室等で感染防止対策を徹底したうえで、対面での取材を行いました。

③聞き書き甲子園成果報告会（フォーラム）

オミクロン株の蔓延により、3月下旬まで首都圏を中心とした地域がまん延防止等重点措置の対象となったことから、成果報告会をオンラインに変更して実施しました。代表の5組の名人と高校

生が登壇するトークセッションでは、各名人の仕事を紹介する際に、事前に撮影した仕事場等の映像を用いました。

実施後アンケート（回答者 101 名）では、96%が今回のフォーラムの内容を「良かった」と回答し、100%が「これからも聞き書き甲子園が続いて欲しい」と回答しました。

（実施内容）

〔日時〕 2022 年 3 月 21 日（月・祝）

〔プログラム〕

13：30 開会挨拶（主催者代表）：林野庁長官天羽隆氏（ビデオレター）

13：40 大臣賞等受賞者の紹介

13：45 特別講演「今、なぜ、聞き書きなのか」実行委員長 洪澤寿一

14：15 森・川・海の名人と高校生の体験談（前半）

〔聞き手：塩野米松（作家）／阿川佐和子（文筆家）〕

15：15 休憩

15：25 森・川・海の名人と高校生の体験談（後半）

16：05 閉会

16：10 終了

〔参加者〕事前登録者数 283 名、同時ビューの最大数 140 名

<協力市町村（地域）での成果発表会の申請>

第 20 回聞き書き甲子園の終了後に、協力市町村（地域）において報告会等を実施する場合には、その費用の一部を補助する制度があります。本年度は 7 地域（山形県白鷹町、栃木県鹿沼市、長野県飯田市南信濃地区、岐阜県東白川村、同中津川市加子母地区、大阪府阪南市、岡山県備前市）から申請がありました。また、新型コロナウイルス感染拡大への懸念から、実施の可否を検討している地域が他に 2 地域（岩手県西和賀町、山形県小国町）ありました。

<第 21 回協力市町村（地域）公募>

第 21 回聞き書き甲子園の協力市町村には、第 19 回開催時より協力を延期していた徳島県にし阿波地域と、第 20 回開催時に協力を延期した石川県能登町に加え、新たに 12 地域から申請がありました。合わせて 14 地域、96 名の名人が決定しました。

〔第 21 回協力市町村（地域）〕

栃木県那珂川町／山梨県小菅村／石川県能登町／富山県南砺市／静岡県川根本町／岐阜県みのかも定住自立圏（美濃加茂市・川辺町・白川町・東白川村）／三重県鳥羽市／福井県美浜・若狭町／京都府京丹後市／兵庫県養父市／岡山県真庭市（勝山・美甘地域）／徳島県にし阿波地域（美馬市・三好市・つるぎ町・東みよし町）／山口県山口市（徳地地域）／熊本県八代市

<20 周年記念行事>

聞き書き甲子園の 20 周年を記念する行事を実施しました。名人の生きざまに学び、これからの時代の「生き方・働き方」を考える場の提供、ならびに、「聞き書き」の活動意義を伝えることを目的に、全国 20 か所で展示や映画上映、トークイベントなどを開催しました。

2022 年 9 月 14 日～26 日に東京・恵比寿の弘重ギャラリーで開催した記念企画展「『聞く』と『書く』のあいだ展」では、第 18 回聞き書き甲子園に参加した 6 地域の高校生と名人にスポットを当て、彼らの言葉の背景が感じられる展示を行い、189 名が来場しました。

10月からは、全国6か所での地方巡回展を実施しました。第18回と21回の協力市町村（地域）の協力を得て、パネル展示や映画上映会、聞き書き甲子園卒業生が登壇したトークイベントなどを行いました。こちらには延べ1,800名が来場しました。

これに加え、全国13か所の図書館でパネル展示を行いました。これは、都城市立図書館の協力により、全国の図書館に呼びかけて実現したものです。聞き書き甲子園の活動紹介や、名人の言葉・高校生の感想を掲示したパネル展示のほか、聞き書き作品集や関連書籍等も紹介しました。一部の図書館では、映画「森聞き」短編版の上映も行い、延べ19,540名が来場しました。

なお、当初計画では、愛知県豊根村、徳島県美馬市での開催も予定していましたが、コロナの感染拡大の影響で中止となりました。

[実施場所]

(企画展) 東京・恵比寿「弘重ギャラリー」

(地方巡回展) 京都府京丹後市／山形県酒田市／山形県飯豊町／大分県／宮崎県都城市／岡山県真庭市

(図書館等でのパネル展示) 京都先端科学大学附属中学校高等学校 図書館／静岡県立中央図書館／菊陽町図書館／大田区立羽田図書館／西米良村役場 基幹集落センター／大田区立大森南図書館／大崎市図書館／県立長野図書館／厚木市立中央図書館／紫波町図書館／札幌駅前通地下歩行空間／松本市中央図書館／飯能市立図書館



企画展（東京・恵比寿）



地方巡回展（大分県）



地方巡回展（岡山県真庭市）



パネル展示（大崎市図書館）

2. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業

<第3回「きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園～」の開催>

「きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園～」は、都内の中学生が、東京の自然公園が広がるエリアで働き、暮らし、自然との関わり方を熟知している「名人」の知恵や技術、生き方を「聞き書き」することを通じて、自然公園が広がるエリアと都内のその他エリアとの交流、青少年と熟年者の世代間交流を図るものです。

これにより「東京の自然公園ビジョン」（平成 29 年 5 月）で目標とする「人と自然との関係をとりのつ自然公園」の実現に寄与することを目的としています。

本年度は、奥多摩町で林業等に従事する名人に都内中学生が「聞き書き」を行って、「ものがたり」を創作し、それを影絵で上演する予定で準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、開催を中止。次年度に延期することとなりました。

【実施体制】

〔主催〕 第 3 回「きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園～」実行委員会

（東京都／奥多摩町／NPO 法人共存の森ネットワーク）

〔協賛〕 東京ガスグループ「森里海つなぐプロジェクト」

〔協力〕 株式会社ベネッセコーポレーション 進研ゼミ中学講座

〔助成〕 トヨタ環境活動助成プログラム

〔後援〕 あきる野市／青梅市／日の出町／檜原村

3. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業

1) 「第 8 回 海辺の自然再生・高校生サミット」の開催

「海辺の自然再生・高校生サミット」は、海辺の自然再生に取り組む高校生が日頃の活動や研究成果を発表し、意見交換を行う場です。積極的な交流によって、日頃の活動や研究の大切さを再認識すること、また、お互いの取り組みを比較することにより、新たな知恵やアイデアが生まれることに期待しています。

本年度は、「全国アマモサミット 2021 in あおもり」の開催プログラムに「高校生の部」を設け、2021 年 9 月 11～12 日に開催する予定で準備を進めましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2022 年 1 月 8～9 日に延期。下記の 11 校が参加しました。各校の代表高校生が日頃の研究や活動内容を発表し、会場参加者からの質問やアドバイスを受けました。また、青森工業高校の生徒が高校生代表としてパネルディスカッションに参加しました。



（左）発表後の質疑の様子



（右）パネルディスカッションの様子

【参加校】

北海道函館水産高等学校／青森県立青森工業高等学校／山形県立加茂水産高等学校／宮城県水

産高等学校／神奈川県立海洋科学高等学校／福井県立若狭高等学校／関西大学北陽高等学校／岡山学芸館高等学校／福岡県立伝習館高等学校／福岡工業大学附属城東高等学校／熊本県立芦北高等学校（計 11 校）

【実施体制】

本年度は、「全国アマモサミット 2021 in あおもり」（主催：全国アマモサミット 2021 in あおもり実行委員会）の高校生の部として開催しました。

[主催] NPO 法人海辺つくり研究会／NPO 法人共存の森ネットワーク

[協賛] 一般財団法人セブン-イレブン記念財団／マルハニチロ株式会社

[助成] 公益財団法人日本財団

<海辺の自然再生・高校生サミット ウェブサイトの制作>

公益財団法人日本財団の助成により、「海辺の自然再生・高校生サミット」のウェブサイトを作成しました。サミットのこれまでの歩みを紹介するとともに、参加校それぞれが活動状況を発信できるように「活動ブログ」のページを設けました。これにより、参加校の活動発信や交流がより活発化することを期待しています。

【ウェブサイト】海辺の自然再生・高校生サミット <https://amamo-summit.net/>

2) ハンセン病回復者の「聞き書き」事業

ハンセン病回復者への高校生の「聞き書き」事業は、「第 21 回ハンセン病問題に関するシンポジウム（人権フォーラム 2022）」のプログラムの一部として実施しました。同シンポジウムは、ハンセン病に対する正しい理解と差別解消を目的として毎年、開催しています。

高校生の「聞き書き」を実施するにあたり、2022 年 1 月 29 日にオンラインで研修を行いました。研修には 3 校 12 名の高校生が参加し、その後、学校ごとにグループでハンセン病回復者とその家族への聞き書きを行いました。

「第 21 回ハンセン病問題に関するシンポジウム（人権フォーラム）」は、3 月 27 日にオンラインで開催しました。参加した高校生は、ハンセン病回復者の人生や考え、思いを代弁することで、差別や偏見をなくし、共に生きていくことの大切さを訴えました。

その後、4 月 16 日、17 日には、聞き書き作品のまとめ方を学ぶ研修をオンラインで実施。次年度は引き続き、作品づくりとその添削指導を行い、高校生の活動をサポートします。

【参加校】

芝浦工業大学柏高等学校／群馬県立吾妻中央高等学校／栃木県立佐野高等学校

【実施体制】

同事業は、「第 21 回ハンセン病問題に関するシンポジウム（人権フォーラム 2022）」（主催：厚生労働省・法務省・文部科学省・全国人権擁護委員連合会／共催：全国ハンセン病療養所入所者協議会、ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会、ハンセン病違憲国賠訴訟全国弁護団連絡会）のプログラムの一部として実施しました。

[事務局] 国立ハンセン病資料館

[業務委託] 公益財団法人笹川保健財団より当団体が受託



オンライン研修の様子



シンポジウムの様子

3) 真庭市「聞き書き」普及啓発事業

岡山県真庭市の小・中・高等学校において、「聞き書き」の手法を活用した対話的・主体的学びをすすめていくために、教員や児童、生徒、保護者などを対象とした普及啓発事業を真庭市より受託しました。

本年度は、真庭市立勝山小学校3年生、勝山中学校1年生が「勝山まちなみ聞き書き隊」を結成し、勝山まちなみ保存地区やしんまち商店街等の店舗や施設、企業などを訪問して、働いている人に話を聞き、それを学校新聞やリーフレットにまとめました。

当初は2月に、聞き書き甲子園の20周年記念パネルの展示とあわせて、子どもたちの活動発表を行うイベントを開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症のまん延により中止。4月上旬に、真庭市立中央図書館での展示と映画「森聞き」の上映を行いました。

【参加校】

真庭市立勝山小学校／真庭市立勝山中学校

【実施体制】

[主催] 岡山県真庭市

[業務委託] 岡山県真庭市より当団体が受託

4. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

1) 令和3年度 大分県国東半島・宇佐地域「聞き書き」事業

国際連合食糧農業機関（FAO）は、グローバル化、環境悪化、人口増加の影響により衰退の途にある伝統的な農業や文化、土地景観の保全と持続的な利用が図られている地域を「世界農業遺産」に認定しています。国東半島・宇佐地域は2014年に「クヌギ林とため池をつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」として認定されており、その翌年から、農林水産業等に従事する地域の名人を地元の高校生が「聞き書き」する活動を、国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会が実施しています。当団体はその運営の一部を受託し、高校生の活動をサポートしています。

本年度は7月13日に、世界農業遺産高校生「聞き書き」発表会（前年度の活動成果の発表会）を日出町内で開催。その後、8校25名が、本年度の活動に参加することが決定しました。

第1回の研修では、聞き書きの心得やインタビューの仕方を指導。4校は8月6日に対面で実施、残り4校は8月20日及び26日にオンラインで実施しました。

そして9月以降、高校生は、学校のグループごとに計9名の名人に「聞き書き」取材を行いました。

第2回の研修は、主に作品の構成や編集の仕方を指導。6校は10月27日に対面、残り2校は11月1日にオンラインで実施しました。その後、できあがった作品の添削指導を行いました。

【参加校】

高田高等学校／国東高等学校／杵築高等学校／日出総合高等学校／宇佐高等学校／宇佐産業科学高等学校／安心院高等学校／柳ヶ浦高等学校（計8校）

【実施体制】

〔主催〕 国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会

〔事務局〕 大分県農林水産部農林水産企画課世界農業遺産推進班

〔業務委託〕 上記協議会より当団体が受託

2) 「真庭なりわい塾」の開催

<第5期「真庭なりわい塾」基礎講座>

「真庭なりわい塾」は、岡山県真庭市の農山村エリアをフィールドに、これからの農山村と新たなライフスタイルを模索する人材育成塾です。岡山県真庭市と地域住民、当団体の3者が実行委員会を結成し、主催しています。

本年度は、第5期基礎講座を、真庭市北房地区をフィールドに開催しました。

当初、塾生募集のプレイベントを、前年度の4月に岡山市内と大阪市内で開催する予定で準備を進めましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、大阪市内でのイベントは中止。4月24日に岡山市内のみ、オンラインを併用し開催しました。しかし、その後も感染拡大は収まらず、5月に予定していた現地見学説明会は7月10日、11日に延期。応募締切も、7月13日まで延期しました。その結果、25名の応募があり、うち23名が塾に参加することになりました。

全8回の講座は、これまで1泊2日のプログラムで開催していましたが、今期は、すべて日帰りプログラムに変更し、オンラインによる補講も併用しながら、8月からスタートしました。

その後も新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、プログラムの中止や延期があり、最終講座は4月上旬までずれ込みました。

今期は、地域住民との交流など、十分な活動はできませんでしたが、塾生のうち1名は同塾をきっかけに北房地区に移住し、また、次年度開催する実践講座にも15名程度の塾生が参加を希望しています。

<第4期「真庭なりわい塾」実践講座>

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い前年度実施できなかった第4期実践講座を、真庭市中和地区をフィールドに開催しました。参加者は10名。「持続可能な未来的くらしプロジェクト」と「里山の食と薬プロジェクト」の2チームに分かれて、全5回のプログラムを実施しました。

<第6期 塾生募集プレイベントの開催>

第6期の塾生募集のプレイベントを、4月23日に岡山市内、4月24日大阪市内で開催しました。「自分でみつける豊かさと幸せの基準～『買う』から『つくる』くらしへ～」と題し、塾長の澁澤寿一（当団体理事長）による講演や真庭市中和地区の移住者によるトークやパネルディスカッションを行いました。各会場とも参加者は30名程度でしたが、オンライン配信には、90名を超える方から申し込みをいただきました。

【実施体制】

[主催] 真庭なりわい塾実行委員会

(岡山県真庭市／真庭市中和地区・北房地区／NPO 法人共存の森ネットワーク)

[協力] 大和ハウスグループエンドレス募金

[事務局] 真庭市交流定住推進課／蒜山振興局地域振興課／北房振興局地域振興課

[業務委託] 岡山県真庭市より当団体が運営の一部を受託

5. その他

1) インターン生の受入れ

例年、公益財団法人 SOMPO 環境財団の「CSO ラーニング制度」によりインターン生の受け入れを行っています。本年度は、東京都立大学理学部生命科学科 3 年の滝友菜さん、東洋大学社会学部社会心理学科 3 年の石垣瞳子さんを受け入れました。

2) 広報活動

広報活動は、ホームページ、オフィシャルブログ、facebook、インスタグラム、twitter 等を通して行いました。

3) 事務局スタッフの交代

2022 年 3 月末をもって、大谷めいさんと峯川大さんが退社。同年 4 月より、福川杏樹さんが常勤スタッフに加わりました。峯川大さんには、引き続き、非常勤で事務局をサポートいただいています。

2021年度決算報告<2021年5月1日~2022年4月30日>

1. 2021年度 活動計算書

| 令和3年度 活動計算書 | | | |
|--------------------------------|------------|------------|------------|
| 令和3年5月1日から令和4年4月30日まで | | | |
| 特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク (単位:円) | | | |
| 科 目 | 金 額 | | |
| I 経常収益 | | | |
| 1 受取会費 | | | |
| 正会員受取会費 | 302,000 | | |
| 賛助会員受取会費 | 200,000 | 502,000 | |
| 2 受取寄付金 | | | |
| 受取寄付金 | | 1,497,500 | |
| 3 受取助成金等 | | | |
| 受取助成金 | 6,228,703 | | |
| 受取協賛金 | 3,700,000 | | |
| 受取補助金 | 32,090,415 | 42,019,118 | |
| 4 事業収益 | | | |
| 青少年教育事業収益(注1) | 179,116 | | |
| 普及啓発事業収益(注2) | 3,570,340 | | |
| 森づくり事業収益(注3) | 227,480 | | |
| 地域づくり事業収益(注4) | 4,031,837 | 8,008,773 | |
| 5 その他収益 | | | |
| 受取利息 | 385 | | |
| 雑収益 | 24,000 | 24,385 | |
| 経常収益計 | | | 52,051,776 |
| II 経常費用 | | | |
| 1 事業費 | | | |
| (1)人件費 | | | |
| 理事報酬 | 2,640,000 | | |
| 給料手当 | 8,803,000 | | |
| 法定福利費 | 1,531,699 | | |
| 福利厚生費 | 1,213 | | |
| 人件費計 | 12,975,912 | | |
| (2)その他経費 | | | |
| 求人広告料 | 253,000 | | |
| 広告宣伝費 | 352,057 | | |
| 印刷費 | 3,893,967 | | |
| 支払手数料 | 304,898 | | |
| 制作費 | 4,656,055 | | |
| 施設借上費 | 2,882,342 | | |
| 講師料 | 1,745,655 | | |
| リース料 | 730,416 | | |
| 原稿料 | 30,000 | | |
| 車両借上費 | 163,995 | | |
| 事務用品費 | 492,500 | | |
| 消耗品費 | 55,221 | | |
| 地代家賃 | 1,200,000 | | |
| 保険料 | 17,317 | | |
| 租税公課 | 4,600 | | |
| 旅費交通費 | 7,019,894 | | |
| 通信運搬費 | 2,652,001 | | |
| 諸会費 | 5,000 | | |
| 会議費 | 237,350 | | |
| 新聞図書費 | 53,280 | | |
| 委託費 | 7,741,520 | | |
| 雑費 | 97,872 | | |
| その他経費計 | 34,588,940 | | |
| 事業費計 | | 47,564,852 | |

| | | | |
|--------------|-----------|-----------|------------|
| 2 管理費 | | | |
| (1)人件費 | | | |
| 福利厚生費 | 23,100 | | |
| 人件費計 | 23,100 | | |
| (2)その他経費 | | | |
| 印刷費 | 33,000 | | |
| 支払手数料 | 29,315 | | |
| 事務用品費 | 85,136 | | |
| 消耗品費 | 1,086 | | |
| 保険料 | 11,250 | | |
| 租税公課 | 592,900 | | |
| 通信運搬費 | 48,041 | | |
| 委託費 | 165,000 | | |
| 繰延資産償却 | 150,000 | | |
| その他経費計 | 1,115,728 | | |
| 管理費計 | | 1,138,828 | |
| 経常費用計 | | | 48,703,680 |
| 当期経常増減額 | | | 3,348,096 |
| 税引前当期正味財産増減額 | | | 3,348,096 |
| 当期正味財産増減額 | | | 3,348,096 |
| 前期繰越正味財産額 | | | 24,099,522 |
| 次期繰越正味財産額 | | | 27,447,618 |

2. 2021年度 計算書類の注記

令和3年度 計算書類の注記

特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2. 事業別損益の状況

(単位:円)

| 科目 | 青少年教育事業(注1) | 普及啓発事業(注2) | 森づくり事業(注3) | 地域づくり事業(注4) | 事業部門計 | 管理部門 | 合計 |
|-----------|-------------|------------|------------|-------------|------------|-----------|------------|
| I 経常収益 | | | | | | | |
| 1. 受取会費 | | | | | 0 | 502,000 | 502,000 |
| 2. 受取助成金等 | 38,737,747 | 2,300,000 | 144,703 | 2,284,168 | 43,466,618 | 50,000 | 43,516,618 |
| 3. 事業収益 | 179,116 | 3,570,340 | 227,480 | 4,031,837 | 8,008,773 | | 8,008,773 |
| 4. その他収益 | | | | | 0 | 24,385 | 24,385 |
| 経常収益計 | 38,916,863 | 5,870,340 | 372,183 | 6,316,005 | 51,475,391 | 576,385 | 52,051,776 |
| II 経常費用 | | | | | | | |
| (1) 人件費 | | | | | | | |
| 理事報酬 | 1,540,000 | 660,000 | | 440,000 | 2,640,000 | | 2,640,000 |
| 給料手当 | 8,130,000 | 673,000 | | | 8,803,000 | | 8,803,000 |
| 法定福利費 | 1,425,615 | 106,084 | | | 1,531,699 | | 1,531,699 |
| 福利厚生費 | 1,213 | | | | 1,213 | 23,100 | 24,313 |
| 人件費計 | 11,096,828 | 1,439,084 | 0 | 440,000 | 12,975,912 | 23,100 | 12,999,012 |
| (2) その他経費 | | | | | | | |
| 求人広告料 | 253,000 | | | | 253,000 | | 253,000 |
| 広告宣伝費 | 229,251 | 8,767 | | 114,039 | 352,057 | | 352,057 |
| 印刷費 | 3,803,337 | 78,590 | | 12,040 | 3,893,967 | 33,000 | 3,926,967 |
| 支払手数料 | 199,848 | 105,050 | | | 304,898 | 29,315 | 334,213 |
| 制作費 | 4,490,055 | 166,000 | | | 4,656,055 | | 4,656,055 |
| 施設借上費 | 2,835,942 | | | 46,400 | 2,882,342 | | 2,882,342 |
| 講師料 | 768,224 | | 227,480 | 749,951 | 1,745,655 | | 1,745,655 |
| リース料 | 669,548 | 60,868 | | | 730,416 | | 730,416 |
| 原稿料 | | | | 30,000 | 30,000 | | 30,000 |
| 車両借上費 | 36,687 | 1,660 | | 125,648 | 163,995 | | 163,995 |
| 事務用品費 | 411,080 | | | 81,420 | 492,500 | 85,136 | 577,636 |
| 消耗品費 | 55,221 | | | | 55,221 | 1,086 | 56,307 |
| 地代家賃 | 1,100,000 | 100,000 | | | 1,200,000 | | 1,200,000 |
| 保険料 | 17,317 | | | | 17,317 | 11,250 | 28,567 |
| 租税公課 | | 1,200 | | 3,400 | 4,600 | 592,900 | 597,500 |
| 旅費交通費 | 3,913,713 | 1,863,187 | | 1,242,994 | 7,019,894 | | 7,019,894 |
| 通信運搬費 | 2,158,470 | 338,490 | 1,886 | 153,155 | 2,652,001 | 48,041 | 2,700,042 |
| 諸会費 | | 5,000 | | | 5,000 | | 5,000 |
| 会議費 | 64,150 | 144,400 | | 28,800 | 237,350 | | 237,350 |
| 新聞図書費 | 13,520 | 37,600 | | 2,160 | 53,280 | | 53,280 |
| 委託費 | 6,542,920 | 358,600 | | 840,000 | 7,741,520 | 165,000 | 7,906,520 |
| 雑費 | 80,000 | 7,180 | | 10,692 | 97,872 | | 97,872 |
| 繰延資産償却 | | | | | 0 | 150,000 | 150,000 |
| その他経費計 | 27,642,283 | 3,276,592 | 229,366 | 3,440,699 | 34,588,940 | 1,115,728 | 35,704,668 |
| 経常費用計 | 38,739,111 | 4,715,676 | 229,366 | 3,880,699 | 47,564,852 | 1,138,828 | 48,703,680 |
| 当期経常増減額 | 177,752 | 1,154,664 | 142,817 | 2,435,306 | 3,910,539 | -562,443 | 3,348,096 |

3. 事業正式名称

(注1)人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業

(注2)「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業

(注3)「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業

(注4)「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

4. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

| 科目 | 財務諸表に計上された金額 | 内、役員との取引 | 内、近親者及び支配法人等との取引 |
|-----------|--------------|-----------|------------------|
| (活動計算書) | | | |
| 給与手当(事業費) | 8,803,000 | 2,620,000 | |
| 活動計算書計 | 8,803,000 | 2,620,000 | |

3. 2021年度 貸借対照表

令和3年度 貸借対照表

令和4年4月30日現在

特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

(単位:円)

| 科 目 | 金 額 | | |
|------------|------------|------------|------------|
| I 資産の部 | | | |
| 1 流動資産 | | | |
| 現金預金 | 49,786,270 | | |
| 未収入金 | 7,846,247 | | |
| 前払費用 | 375,064 | | |
| 流動資産合計 | | 58,007,581 | |
| 2 固定資産 | | | |
| 投資その他の資産 | | | |
| 敷金 | 600,000 | | |
| 固定資産合計 | | 600,000 | |
| 3 繰延資産 | | | |
| 更新料 | 112,500 | | |
| 繰延資産合計 | | 112,500 | |
| 資産合計 | | | 58,720,081 |
| II 負債の部 | | | |
| 1 流動負債 | | | |
| 未払金 | 4,417,177 | | |
| 前受金 | 26,686,846 | | |
| 預り金 | 168,440 | | |
| 流動負債合計 | | 31,272,463 | |
| 負債合計 | | | 31,272,463 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 前期繰越正味財産 | | 24,099,522 | |
| 当期正味財産増減額 | | 3,348,096 | |
| 正味財産合計 | | | 27,447,618 |
| 負債及び正味財産合計 | | | 58,720,081 |

4. 2021 年度決算についての監査報告書

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人共存の森ネットワークの2021年度(2021年5月1日～2022年4月30日)の会計決算について、諸帳簿や関係書類にもとづき監査した結果、その内容が適正であることを認めます。

2022年 5 月 15 日

特定非営利活動法人共存の森ネットワーク

監事 原うね子 

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人共存の森ネットワークの2021年度(2021年5月1日～2022年4月30日)の会計決算について、諸帳簿や関係書類にもとづき監査した結果、その内容が適正であることを認めます。

2022年 6月20日

特定非営利活動法人共存の森ネットワーク

監事 中山 幹生 

事務局

吉野 奈保子（事務局長）

三木 夏苗

福川 杏樹

特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

〒156-0043 東京都世田谷区松原 1-11-26 コスモリヴェール松原 301 号

TEL: 03-6432-6580 FAX: 03-6432-6590 E-mail: mori@kyouzon.org

<http://www.kyouzon.org/>